

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 26 日現在

機関番号：72644

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26770236

研究課題名(和文)近世後期の地方商人と三都商業資本に関する基礎的研究

研究課題名(英文)Basic Research about Relationship the Merchant Between the megalopolis and the local city in the Late Edo Period

研究代表者

下向井 紀彦(Shimomukai, Norihiko)

公益財団法人三井文庫・社会経済史研究室・研究員

研究者番号：70625657

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、三井越後屋(以下、越後屋)を事例として、三都商業資本の地方展開と、在地商人の商業活動との関係性を双方向から検討し、地域経済の変容の中で双方が如何なる影響を及ぼしたかを明らかにすることを目的とした。まず三井文庫史料から越後屋の鳥取木綿仕入に関する史料の整理・分析を行い、次いで鳥取県内の資料館・博物館所蔵史料の調査・収集・整理を行った。越後屋の史料の分析を通して、越後屋の仕入量や仕入価格、在地商人との仕入競合、在地商人への金融面での影響力など、仕入に関連する活動実態を明らかにできた。また、地方の史料の分析を通して、在地商人の現地での仕入活動や上方への木綿送付の具体像などを明らかにできた。

研究成果の概要(英文)：In this study, I clarified the relationship between Mitsui Echigoya's local entry and the local merchant's business activities in both directions. This study is summarized in three points. (1) At Mitsui Bunko, I selected and analyzed historical materials on purchases of cotton fabrics of Mitsui Echigoya in Hakushu(Tottori). (2) At several historical museums in Tottori, I collected the historical materials about the economic activities of Mitsui Echigoya and local merchants in Hakushu. (3) As a result, I was able to present some of the concrete activities of Mitsui Echigoya and regional merchants in Hakushu.

研究分野：日本近世史

キーワード：日本近世史 三井越後屋 鳥取藩 木綿 地域経済

1. 研究開始当初の背景

従来、三都商業資本の地方展開は、十組問屋仲間など問屋仲間としての研究や、仕入品の数量的分析、買宿(現地での仕入代行商人、前貸しによる都市商業資本との従属関係を構築)との関係の中で考察されてきた(北島正元『江戸商業と伊勢店』1962、林玲子『江戸問屋仲間の研究』1967、賀川隆行『近世三井経営史の研究』1985など)。しかし、これらの研究では、在地商人の動向には十分に關心を払われてこなかったように思われる。

一方で、各藩の国産品移出・大坂積み登せについては藩による専売制・正金銀獲得策に関する視角から研究が進められ、都市商業資本の資金面での関与も明らかにされてきた(吉永昭『近世の専売制度』1973など)。また、在地商人の、領外移出をめぐる商業活動については個別の商家経営の実態や、藩の専売制が論じられてきた(西向宏介「幕末期姫路木綿の流通と大坂問屋資本」『ヒストリア』1991など)。しかし、都市商業資本の地方での活動の具体像や、在地商人との競合とその対応、藩専売制と都市商業資本との関係などについてもあまり解明が進んでいない。

申請者は、所属する三井文庫において、三井の呉服店部門の仕入・販売の研究を進めており、特に鳥取藩を事例に三井による木綿の仕入活動について調査を行っている。三井は鳥取藩の西紙屋という商人を買宿に任じて木綿の直仕入を行っていたため、三井文庫所蔵史料には仕入関係史料が豊富に残っている。また、買宿西紙屋の史料も鳥取県立博物館に収蔵されて現存している。鳥取は現地での活動を詳細に追うことのできる好適地なのである。申請者はこの中で、鳥取藩内における三井の木綿仕入の経緯や規則、手代派遣のしくみ、仕入体制構築の実態(買宿西紙屋の仕入特権の付与や藩の大坂送金を利用した仕入金確保)等について具体的に明らかにしてきた。本研究の申請時点では、仕入数の時期的変化や文政期の藩専売制への三井の対応等について研究を進めていたが、この作業の中で、三井・買宿西紙屋と、在地商人との間で、木綿仕入や大坂積み登せにおいて競合が発生していることがみえてきた。しかし、三井と買宿西紙屋の史料はあくまで三井の仕入活動の記録であり、在地商人の実態具体像について解明するには至っていなかった。

一方、鳥取における商業政策や在地商人の活動については『鳥取県史』『新修米子市史』『新編倉吉市史』などの自治体史において考察されているものの、概要を述べるにとどまっている。史料調査も進んでおらず、在地商人の商業活動の実態については不明な点が多い。また、自治体史での記述は19世紀後半以降詳しくなり、特に鳥取において木綿生産の興隆する18世紀後半から、藩の専売制の実施と挫折を経験する19世紀中盤にかけての実態についてはあまり明らかになっていない。さらに、当該地域における郷土史研

究では、三井(買宿も含めて)に関する調査・研究の必要性を認識されつつも行われず(「伯耆国八橋郡赤崎村西紙屋資料について」『鳥取県立博物館資料調査報告書11、西紙屋資料』1983)これらの研究状況の打開、双方の乖離も克服が求められている。したがって、地域の流通構造や商業活動がめまぐるしく変化する当該期における在地商人の仕入活動や、中央市場向けの商業活動などの実態を明らかにするためには、現地での史料調査・収集から取り組む必要がある。

2. 研究の目的

本研究では、第一に、18世紀後半から19世紀中盤の鳥取における集荷・移出等、流通に関する在地商人の史料を調査・収集し、国産品の集荷から領外移出・大坂積み登せにいたる商業活動の実態解明を行う。特に、三井など三都商業資本との仕入をめぐる関係、主要移出先は何处か(北前船の下り荷と大坂積み登せはどちらが多いのか)、藩専売制が在地商人の活動に与えた影響、等に注目して分析を進める。史料収集は、三井の主力仕入木綿だった伯州木綿に関する史料を主軸にするが、鳥取藩の重要産品である鉄・紙などを取り扱っている商人についても、商品を限定せず木綿同様の調査・収集・研究を行い、在地商業活動の全容把握のための材料とする。

第二に、三井および現地買宿の史料を通して、三都商業資本の地方展開を明らかにする。これまでの申請者の研究で仕入体制構築過程を明らかにしたことを踏まえて、現地での在地商人との関係(対立関係にあったのか棲み分けができていたのか等)、在地商人との競合による仕入体制転換、藩専売制実施にともなう三井の仕入中止とその対応等、三井の視点からの木綿をめぐる活動を分析する。

そして、これらの成果に基づき、在地商人が三井越後屋から受けた影響、在地商人が三井越後屋に与えた制約、在地商人と中央市場(本研究では特に大坂)とのかかわりなど、双方の関係性・相剋等を総合的に明らかにし、これらを踏まえて最終的には藩権力と在地商人・三都商業資本との関係をも展望し、近世後期日本における市場構造・流通構造・地域社会の実態と変容に迫りたい。

3. 研究の方法

本研究では、在地商人に関する史料調査・収集(写真撮影)・整理を重点的に行う。まず対象地域(本研究では鳥取を想定)の博物館・資料館・図書館等に収蔵されている史料を中心に調査・収集を行い、あわせて地域の個人蔵の史料情報の収集も行い、可能であれば調査を行う。一方で、三井越後屋の史料の中から、関連する資料を抽出・整理する。そして、これらの作業で得た史料の目録を作成し、これらを集積した史料に基づいた実証的研究を行い、少なくとも年に一度の頻度で研

研究会での研究報告を行い、少なくとも年に一本の研究成果を論文にまとめ、学会誌等での発表を行う。

4. 研究成果

(1) 2014年度

鳥取における史料調査・収集活動については、米子市立山陰歴史館の所蔵する史料のうち、在地商人や木綿生産に関する史料の現状を把握し、それらを中心に撮影・整理を行い、調査した史料の文字をパソコンで入力してデータ化を進めた。当初の計画では、本年度中に倉吉博物館と鳥取県立博物館にも調査に行く予定であったが、米子で調査を重点的に行ったことで、上記の二館を訪れられなかったものの、上記機関で想定より多めの調査を行うことができた。また、先行研究の整理も行い、新たな視点から米子周辺の商人を通じた地方における商業活動の実態を解明する基礎を作った。

三井文庫所蔵の鳥取の木綿仕入に関する史料については、予定通り整理および入力作業を進めることができた。これを踏まえて地域経済との関係を明らかにし、在地商人側の史料とつきあわせて分析を行うための基礎を作った。

なお、上記のように史料調査を重点的に行ったため、当初計画していた研究報告と研究成果の発表はかなわなかったが、史料の調査・収集・整理という目的は想定以上に達せられ、研究活動を行うための基盤作りも計画通り進めることができた。

(2) 2015年度

鳥取の史料所蔵機関での史料調査・収集・整理を重点的に行い、収集・整理した史料に基づいた研究を行い、その研究成果の一部を発表することができた。

鳥取における史料調査・収集活動は米子市立山陰歴史館、倉吉博物館、鳥取県立博物館、鳥取県立公文書館で行った。では米子商人や木綿生産に関する史料の一部を撮影し、調査した史料を翻刻してデータ化を進めた。では倉吉商人の史料を調査した。本研究と直接関わるものではなかったが、調査史料をリスト化し同館にも提供した。では三井越後屋の買宿（現地の仕入拠点）に関する史料を撮影し、調査した史料を翻刻してデータ化を進めた。では複製資料を閲覧し、在地商人の活動状況を示す史料を確認した。当初の計画では個人蔵史料の調査を行う予定であったが、鳥取県立公文書館の複製資料閲覧で代替した。

三井文庫所蔵の鳥取の木綿仕入に関する史料については、予定通り整理および入力作業を進めることができた。これを踏まえて三井越後屋と現地買宿の史料を複合的に検討して越後屋の木綿仕入動向の一端を明らかにできた。また、地域経済との関係を明らかにし、在地商人側の史料とつきあわせて分

析を行うための基礎を作った。

本年度は史料調査を重点的に行い、史料の調査・収集・整理という目的を達成できた。また、研究報告と研究成果の発表も行えたため、研究活動の目的も達成できた。

(3) 2016年度

前年度から継続して史料の調査・収集・整理を行い、同時に本研究に係る未読の参考文献を収集して本研究を進めるための論点の整理を行った。鳥取の在地商人に関する史料は、現地での史料調査・収集・整理を進めた。本年度は、米子市立山陰歴史館の所蔵史料を重点的に調査し、商業・地域経済に関する史料の撮影、整理、筆耕作業等を行った。また、現地の図書館で自治体史等の地方史関係文献の複写も同時に行った。これら収集した史料・文献を読み込んで、在地商人の状況把握と、商業活動や町方の商業政策の実態解明に向けて研究を進めた。三井越後屋に関する史料は、三井文庫に所蔵している史料の中から、鳥取の木綿仕入に関する未読史料をパソコンで入力・データ化した。そのうえで史料の読み込みを進め、収集した在地商人の史料と組み合わせ木綿の流通を巡る商業活動について研究を進めた。また、これらの成果をふまえて研究を行い、郷土史団体の研究会等で研究報告を行い、研究成果を発表した。

これらの研究成果により、伯州において在地商人の活動が在地における都市問屋の活動に与えた影響や都市問屋が在地の経済活動に果たした役割の一端を明らかにできた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

下向井 紀彦、伯州木綿買宿西紙屋の借銀と越後屋の対応、三井文庫論叢、査読無、第 49 号、2015 年、pp271-312

下向井 紀彦、書状からみた三井越後屋の伯州木綿仕入 天保期を主な事例として、三井文庫論叢、査読無、第 50 号、2016 年、pp343-408

[学会発表](計 3 件)

下向井 紀彦、近世後期三井越後屋における雲伯木綿の仕入と輸送、交通史学会、春日部市郷土資料館、2015 年 7 月 25 日

下向井 紀彦、三井越後屋の伯州木綿の仕入と在地商人の動向 おもに天保期を事例として、鳥取地域史研究会、鳥取県立博物館、2016 年 7 月 9 日

下向井 紀彦、三井越後屋の木綿仕入体制の変容 天保期の山陰地域を事例に、経営史学会関東部会、成城大学、2017 年 1 月 28 日

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

下向井 紀彦 (SHIMOMUKAI, Norihiko)
公益財団法人三井文庫・社会経済史研究
室・研究員
研究者番号：70625657

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()